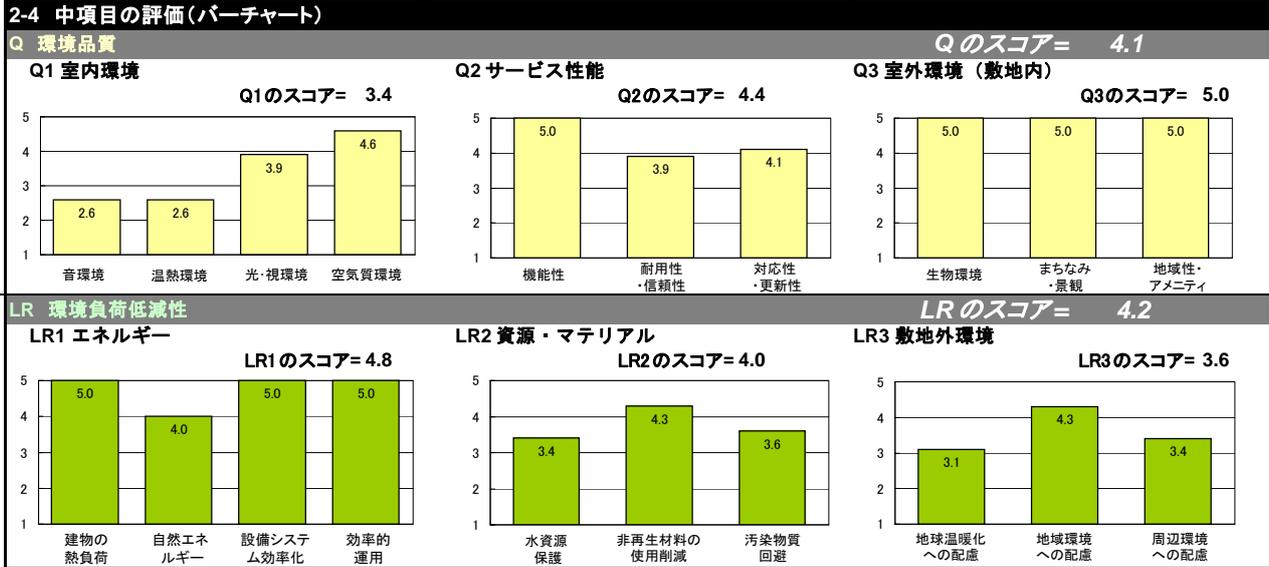
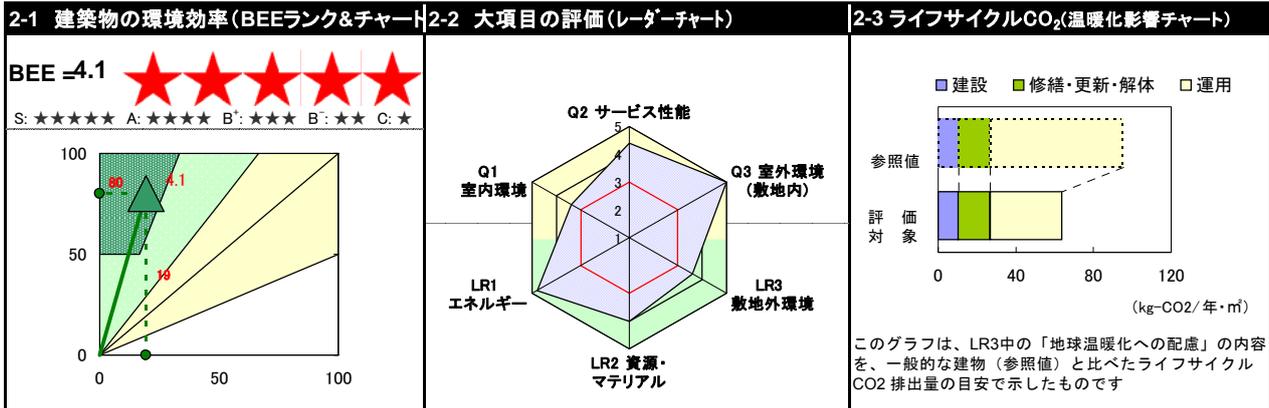


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	立命館大学衣笠キャンパス新体育	階数	地下3階 地上1階
建設地	京都市右京区龍安寺御陵ノ下町2-	構造	S造
用途地域	都市計画区域 市街化区域	平均居住人員	176 人
気候区分	地域区分 I	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2013年7月 予定	評価の実施日	2011年1月25日
敷地面積	5,928 m ²	作成者	
建築面積	2,321 m ²	確認日	2011年1月25日
延床面積	9,409 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
人・街・地球のエネルギーを最大限に活かすキャンパスの顔をつくります ○五感を刺激し交流を促す場の創出 ○街並・近隣と協調するキャンパス更新モデルの構築 ○立地を活かした省CO ₂ 技術による負荷の最小化	既存体育館の地上部分を減築し地下躯体をトレーニングルーム等に利用する。	
Q1 室内環境 ライトシェルフ等で全方位の壁面・天井照度が均等に明るく、日中は照明のエネルギー負荷を低減する計画としている。	Q2 サービス性能 アリーナの内装材は耐久性を備えた国産木材を用いている。設備更新性を考慮した、ゆとりのある平面計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 生態系・地域の植生を考慮した植栽計画とし、積極的に屋上緑化を採用している。
LR1 エネルギー 建物の過半を地下化することでPAL値を低く抑え空調にかかるエネルギー負荷を削減している。	LR2 資源・マテリアル 豊富に湧き出る湧水を建物内を循環させ緑化灌水・太陽光パネル冷却・中水等に利用している。	LR3 敷地外環境 高防音機能を有した換気システムを採用し、アリーナ内で発生した騒音は敷地外へ出さない計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたいた